

湖南省立三雲東小学校

芦田 知晃さん

Profile

京都府出身。2020年3月滋賀大学教育学部教員養成課程教育文化専攻卒業。同年4月湖南省立三雲東小学校着任。滋賀大学が琵琶湖の湖畔、彦根城の眼下にあり、「環境教育」について学ぶことに惹かれて進学。在学中には伝統、実績がある漕艇(ボート)部に入部。学業や教育実習などに忙しい中、厳しいトレーニングメニューをこなし、数多くの大会に出場。好成績を収めた。

教育そのものの理解を深めて小学校教員に 子どもの人としての成長に力を尽くす

子どもの言葉が 教師への道を後押し

私は人に物事を伝えたり、勉強を教えたりすることがうまいと言われることが多く“教師という仕事が向いているのではないかと漠然と思い描いていました。高校に入り、進学先を考える時期に、ちょうど小中学生に勉強を教える機会がありました。そこで生徒たちから、「担任の先生になってくれたらうれしい」という言葉をもらい、教師になることを決意。滋賀大学教育学部に入学しました。

子どもと高齢者が関わる 「生涯学習」について追究

当初は、苦手だった数学を好きにさせてくれた高校時代の恩師のように、数学教師をめざそうと考えていました。一方で、教育そのものの在り方や子どもとの関わり

り方、また学校経営などについても知りたい思いが強く、教育全体について学ぶことができる教育文化専攻を選択。授業では「生涯学習」について力を入れて学びました。子どもの教育においては、学校や教師だけでなく、保護者や地域との連携・協働が重要です。私はとくに子どもと高齢者と関わりに着目し、両者をどのようにつないでいくかの考察を重ねました。在学中はコロナ禍の影響で、子どもと高齢者をつなぐことを実践できなかったのですが、今後はリアルな交流の場を設けていきたいと考えています。

専攻での学びを成長にも クラス運営にも活かす

小学校教員になったのは、生涯学習の学びと、滋賀大学附属小学校での教育実習で小学生に接したことで、学習以外の面でも子どもの成長により深く関わるこ



ができると思ったからです。現在は、小学5年生のクラス担任をしています。教師としてもっとも心がけていることは、信頼関係の構築です。私と児童、そして児童同士が信頼し合うことで良好な人間関係が育まれ、授業もクラス運営も円滑に成立していきます。この信頼関係の構築には、密なコミュニケーションと、互いの良い面の発見・尊敬が欠かせません。このことを児童たちに伝え続けていると、一人ひとりが相手の立場や気持ちになって考えたり、行動することができるようになってきました。成績が上がることも大切であり、授業の方法についてはつねに工夫を凝らしています。ですが、こうした人としての成長を促すことも教師の使命であり、私の何よりの喜びです。だからこそ、滋賀大学教育学部独自の教育文化専攻において、教育の根幹を学び、教師になったことは、大きなプラスになっています。専攻の先生からいただいた「教師も生涯学習が不可欠」という言葉を胸に、私も学びと成長を続け、子どもたちに寄り添い、育んでいくことが目標です。

